

巻頭写真 埼玉県北本市デーノタメ遺跡における発掘調査

Excavation of the Denotame site, Kitamoto city, Saitama Pref., in central Japan

埼玉県北本市のデーノタメ遺跡は大宮台地の北西部を開析する江川上流部の支流に位置しており、「デーノタメ」と呼ばれた溜池が1969年まで存在していた場所に当たる（北本市教育委員会，2019）。デーノタメ遺跡は、この溜池の南東の縁から台地上に広がっており、1997年に認可された久保特定土地区画整理事業地内の北西部にあって、都市計画道路が整備される予定であった。その後、この事業地内で土地区画整理事業とともなって発掘調査を行ったところ、縄文時代中期の環状集落と後期の弧状集落の一部が台地上に確認され（写真1）、2008年には北西隅にある低地部が第4次調査として発掘された（写真2）。現在、この遺跡の範囲内にある台地上には雑木林が残っており（写真3）、オオタカの棲息も確認されている。また発掘調査により、縄文時代中期から後期におよぶ集落の存在をはじめとする埋蔵文化財の重要性が市民にも認識されるようになった。そうした経緯から、市では先に認可された土地区画整理事業および都市計画道路の見直しが行われ、デーノタメ遺跡は2024年に国の史跡と



写真2 デーノタメ遺跡第4次調査区全景。



写真1 雑木林の下に検出された縄文時代後期の遺構。



写真3 台地上の縄文時代後期の集落の上に広がる雑木林。

して指定され、現在、史跡公園としての整備が進められている。

第4次調査の調査面積は170 m²と広くはなかったものの、集落のごく近傍にあたったため、6基のクルミ塚(写真4)や木組遺構(写真5)、トチ塚などが見いだされ、また多数の漆塗土器も検出された(写真6)。この調査区では、出土した資料と放射性年代測定値を突きあわせて、遺跡の時代



写真4 縄文時代中期の2号クルミ塚。



写真5 縄文時代中～後期の木組遺構。



写真6 縄文時代中期の漆塗土器。

的な変遷が詳細に検討された(北本市教育委員会, 2019; Noshiro et al., 2025)。その結果、クルミ塚6基は縄文時代中期前半～後半の5200–4800 cal BPに、木組遺構は中期末～後期前葉の4600–4200 cal BPに、トチ塚は後期前葉～中葉の3900–3800 cal BPに形成されたと判明した。台地上では、環状集落が土器型式で勝坂3～加曽利E3に相当する縄文時代中期前半～後半に形成され、弧状集落が土器型式で堀之内1～2に相当する後期前葉と土器型式で加曽利B1に相当する後期中葉に形成されており、低地の遺構の時期と対応した。

こうした出土遺物と堆積物を対象として、集落での植物資源の管理と利用を検討した(Noshiro et al., 2025)。ウルシの利用をみると、漆塗りの土器はほとんどが中期後半の加曽利E1式のものであったが、後期前葉のものもあり、木胎漆器では、中期の漆塗匙や漆器裝飾部および後期の腕輪などが出土した。また植物遺体では、ウルシの木材が中期末～後期前葉の木組遺構などで確認され、ウルシの花粉が中期前半と後期中葉の層準でも確認された。集落が存在した期間には、周囲にナラ林が継続していたものの、集落の近傍ではクリが優占しており、後期にはトチノキが増えたことが、花粉組成から解明された。こうした点から、デーノタメ遺跡の集落では近傍でクリ林とウルシ林の管理と利用が盛んに行われていたと想定された。

引用文献

- Noshiro, S., Sasaki, Y., Yoshikawa, M., Kudo, Y. & Bhandari, S. 2025. Survival during the 4.2 ka event by Jomon hunter-gatherers with management and use of plant resources at the Denotame site in central Japan. *Vegetation History and Archaeobotany* 34: 685–699.
- 埼玉県北本市教育委員会, 編. 2019. デーノタメ遺跡総括報告書(第1・2分冊). 670 pp. 埼玉県北本市教育委員会, 北本. (能城修一・磯野治司 Shuichi Noshiro and Haruji Isono)